東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

中国と日本の大学生のインターネット依存傾向

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2014-04-01
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 王,霞, 和田,正人
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/134693

東京学芸大学紀要　総合教育科学系Ⅱ　**65**: 437－458，2014.

中国と日本の大学生のインターネット依存傾向

王　　霞*・和　田　正　人**

教育実践研究支援センター

（2013年９月13日受理）

１．背景

１．１　世界のインターネット普及率について

ここ十数年，情報技術（IT）革命の急速な発展に伴い，インターネットの普及率が大幅に上昇していき，ネットワークは日常生活の中では不可欠な物となっている。2012年６月にITU（International Telecommunication Union ―国際電気通信連合）の発表では，「2001年から2011年まで世界中インターネット利用者数と利用率」[1]のデータにより，インターネットの利用者は，2001年の５億人から2011年は23億人となった。利用率も2001年の８%から33%になり，10年間の利用者数と利用率は４倍以上となり，年々数が増えている。

そして，アメリカは，世界で最もインターネットの活用が進んでいる国の一つである。アメリカのインターネット利用者数は，2011年12月末時点で約２億4500万人となり，全人口に対する普及率は78.3%である[2]。オーストラリアは，2011年12月末時点のインターネット利用者数は約1960万人で，人口普及率は89.8%とほぼ９割に達している。それ以外に，スウェーデン（92.9%）に続き，オランダ（89.5%），デンマーク（89.0%），フィンランド（88.6%）なども高い水準である[3]。アジアでは，韓国を先駆としてインターネット環境の発展が著しく，インターネット接続スピードに関しては世界でも随一と言われており，昨年末まで韓国の“超高速無線インターネット”の普及率は100.6%と記録した[4]。シンガポールでは77.0%であり，タイでは29.4%である。

また中国では2012年６月末まで，インターネット普及率は39.9%となったとはいえ，利用者数は5.38億の人数に達した[6]。日本では，インターネット利用率は79.1%となっている[7]。

１．２　インターネット依存

こうした世界中のインターネット普及につれ，現代社会におけるインターネットによる精神的ストレスが増加し，「インターネット依存」（以下はネット依存と述べる）と呼ばれる現象が起きている。

１．２．１　インターネット依存症の定義

インターネット依存症は，Young（1994）が賭博依存症と平行な位置づけである「特定不能の衝動制御の障害」に分類し，精神障害の診断と統計の手引きであるDSM-IV[33]をもとに診断するものである。インターネット依存症とは実生活における人間関係を煩わしく感じたり，通常の対人関係や日常生活の心身状態に弊害が生じているにも関わらず，インターネットに精神的に嗜癖してしまう状態であるとされている。これについての明確な定義は今のところなされていないが，その状態を把握するためにYoung（1998）はInternte Addiction Desorder（IAD）を作成した。ここでは，全８項目のうちYesが５つ以上ある者を中毒者，５つ未満の者を非中毒者としている。

1．インターネットに夢中になっていると思う。
2．ある程度の接続時間がないと満足できない。
3．ネットへの接続をやめる（時間を減らす）のを失敗したことがある。
4．接続を切断するときに憂鬱な気持ちになる。

＊　东丽国际贸易（中国）有限公司（中国東レ株式会社, TORAY International (China) CO.,LTD.（上海市静安区南京西路1601号）
＊＊　東京学芸大学教育実践研究支援センター

5．ついつい予定より長く接続してしまう。
6．インターネットのせいで，仕事や学校を休んだことがある。
7．家族やセラピスト，その他の親しい人間に，どの程度ネットに接続しているか正直に答えられなかったことがある。
8．日常生活でイヤなことがあるとネットに接続してそれを解消する。

その後，Griffiths[34]はアルコール依存や薬物依存などの「物質依存」の症状を基準とする立場で，インターネットの過度の利用を論じている。またLamら[35]は女性より男性のほうがインターネット依存になりやすいことや，リスク要因として飲酒・家族機能不全・ストレスなどがあることを明らかにした。しかしながら，Youngは，インターネットそのものに中毒性があるのではなく，それを利用するユーザーのセルフコントロールの問題であると主張した。

一方，日本では小林ら（2001）の“寝食を忘れてインターネットにのめり込んだり，インターネットへの接続を止められないと感じるなど，インターネットに精神的に依存した状態”とした定義がある[12]。しかし本格的な研究の貧しい現状では，どのような減少を主たる特徴とするかについて，まだ一定の見解を得るには到っておらず，その意味では操作的な定義を免れ得ない[36]。

１．２．２　世界中のインターネット依存現状

インターネット依存によって，様々な問題を引き起こし，犯罪に繋がるような反社会的行動も生み出している。各国の諸相として，米国のニューヨーク州のアルフレッド大学では，学生の留年や退学が過去の２倍以上にも激増したため，調査を行ったところ，中退者の52%の学生がネット依存であり，インターネットの乱用が原因で学生生活を崩壊させていることが判明した[8]。ネット先進国の韓国では，青少年の5-10%がネット依存者である可能性があり[9]，2002年に86時間休みなくオンラインゲームをやり続けた男性が突然死した。

中国では，中学生の23.2%がネット依存であるとされ（中国日報，2005），ネット依存専門の国立診療所も建設されている（Wired News, 2004）。日本でも学生を中心にネット依存が生み出され，学生相談の最近のトピックもネットに関する内容が多い。並行して非精神病性ひきこもりの増加や希薄な対人関係が取り沙汰されているが，ひきこもりをする人々の中にもネット依存者は多数存在するという[10]。従って，世界中におけるIT時代の潮流の中で，青年期の人々を中心にネット依存の問題が深刻化している。

１．２．３　インターネット依存傾向

欧米に比べ“日本では「インターネット依存者」より「インターネット依存傾向者」が約半数程度いる”との報告があり[10]，中国も「インターネット依存傾向者」が「インターネット依存者」より大幅に多い[21]との研究があることで，「インターネット依存傾向」は「インターネット依存」より深刻な問題となっているため，研究の必要性が示唆された。そして本研究では「インターネット依存傾向」の視点を採用し，日中両国のネット依存傾向を研究するために，Young（1998）のインターネット依存尺度を利用した。それぞれの得点により，70～100点になった人はネット依存者とし，40～69点になった人はネット依存傾向者と，そして20～39点になった人はネット依存傾向がまだない者とした。

２．先行研究

２．１　日本におけるインターネット依存現状と内訳

今日のネットワーク社会において，携帯電話やパソコンなどのIT機器を日本国民のほとんどが所持している。モバイルインターネットが主要となっている中で，携帯電話でインターネットを利用している人も数多く，半数以上の学生が毎日インターネットを通して情報を得ている[11]。坂西（2011）の研究では日本のネット依存は主に２種類に分かれていることを明らかにした。ひとつはパソコンへのネット依存であり，もうひとつは携帯電話，ニンテンドーDSなどのモバイル機器へのネット依存である。

その中で，パソコンとモバイル機器iPadなどのタブレットに触れていることはゲーム依存の問題である。警察庁が2006年に公表した調査結果によると，継続的にゲームをやっている子供たちの割合は，10～14歳の男子で約85%，同女子で約67%に及んだ[13]。さらに，ネットゲームに夢中になるうち，昼夜逆転して家の中にひきこもってメチャクチャな生活を送ってしまう人が「ネトゲ廃人」と呼ばれている。ネットゲームにログインする小学生が増えていることも問題となっている[14]。

そしてパソコンへのネット依存については，安澤（2009）のインターネットに関する実態調査の研究により，被調査者における一週間のネット利用時間は，平均8.7時間であった。ツール別利用割合を内訳すると，電子メールが47.1%，Web閲覧が85.1%，BBSへ

の投稿が18.4%，チャット9.8%，オンラインゲーム10.3%，SNSが51.7%と利用された。結果としてWeb閲覧を除いてツール別で最も利用頻度が高いのがSNSであった[10]。さらに，SNSを探ってみると，川浦ら（2005b）の調査により，代表的なSNSであるミクシィの位置づけは「情報交換をする場」(72.4%)，「情報を得る場」(65.6%)，「現在の人間関係を深める場」(49.7%)，「暇つぶしの手段」(48.2%)，「知り合いを増やす場」(47.8%）と示され，SNSは情報探索行動をするものと人間関係の手段であることが分かった[15]。

次にモバイル機器へのネット依存については，週刊ダイヤモンド（2009, 07, 25）の調査により，子どもの携帯電話の利用時間は一日6時間半となり，小学生の約3割が携帯電話を持っている。ほぼ毎日，携帯電話で通話やメールをしている子どもは11.6%に上っている[16]。また金山らの中学生の携帯電話依存についての研究により，携帯電話に依存する中学生はそうでない中学生より友達が多いものの，学校でも，家庭でも，十分なコミュニケーションが取れていないことが判明した[17]。

ネット依存についてパソコンと携帯電話の比較を行った坂西（2011）の研究では，ネット依存性が強い者は，ネット利用時に比較的パソコンを多く利用する者の方が，比較的携帯を多く利用する者より依存性が高くなる[18]と述べていた。

また「インターネット白書2012」[32]により，携帯電話の利用者数は年々増えており，2007に携帯電話からの利用者数が自宅パソコンからの利用者数を上回って以来，携帯電話からの利用者数は毎年自宅パソコンからの利用者数を上回っている。特に2010年から2012年までの3年間，スマートフォンの普及率は毎年倍増している。そして，「平成24年版情報通信白書」[41]により，世界市場における携帯電話販売台数に占めるスマートフォンの比率は今後拡大を続け，2015年には世界市場において5割を超える見通しとなっていると記載されている。今後日本のスマートフォン利用者数はさらに増えるだろうと予測される。こうした急速な普及率により，ネット依存傾向者が，パソコンより携帯電話をより多く利用するであろうか？

また安澤（2009）の研究では，「女性が男性よりネット依存傾向が高い」という結果は，今まで多数の先行研究の「男性が女性よりネット依存傾向が高い」という結果と反対となった[10]。その点については，今回の研究で明らかにする。

２．２　中国におけるインターネット依存現状と内訳

中国では2012年6月末まで，CNNIC（中国ネットワーク情報センター）の「第30回インターネット発展状況統計報告」[6]により，インターネット普及率は39.9%となった。一見すると普及率はまだまだ少ないと思われるかもしれないが，利用者数は5.38億の人数に達した[6]。この5年間で中国のネットユーザ規模とインターネットの普及率が年々増加していることが分かる。

2012年8月に中国青少年ネットワーク協会 により行われた調査結果が，「2011年青少年インターネット依存調査報告」として公表された。2011年までに中国青少年インターネット依存者の割合は26%となり，2009年の調査結果14.1%と比べ，10%以上急劇な速度で増加している。そして，調査によると，現在青少年はネットを利用する主要な目的はオンラインゲーム，ニュースの閲覧，音楽鑑賞の3種類に分かれている。その中に，ネット依存の青少年はオンラインゲームをやっている割合はそうでない青少年より大幅に高くなっていた。また男性利用者のネット依存者（27.6%）は女性（19.9%）より多いものの，女性利用者は男性よりネット依存傾向が高いと述べられた[19]。

依存の種類では，中国全土についてのネット依存がまだ研究されず，今までも大学生や青少年のネット依存に関する研究により，ほぼパソコンへのネット依存であると示されている。それは主にオンラインゲーム依存，ネット交際依存，SNS依存，映画や音楽鑑賞依存となっている。また中国科学院心理研究所心理カウンセラセンター主任高文斌の研究では，退学した大学生のうち80%の学生がインターネット依存症である。2010年7月，ある男性はオンラインゲームに夢中するあまり，瀕死状態の彼女を放置して彼女が死亡した事件もあった[20]。ネットカフェで長時間オンラインゲームをやり続けた中学生が突然死したニュースも報道された。それゆえ，オンラインゲーム依存についての研究が沢山述べられ，青少年のオンラインゲーム依存傾向が深刻な社会問題となっている。

オンラインゲームの人気は，国の方針に関係があることが判明した。中国ではオンラインゲームが最も普及している。2001年頃からオンラインゲーム産業が急成長を遂げたが，日本やアメリカに見られるようなゲーム専用機からパッケージゲーム，パソコンゲームへとシフトするような成長ではなく，インターネットの普及に伴い一気にオンラインゲームに突入した。オンラインゲームが普及する前にはテレビゲーム機が普及し始めた時期があったが，テレビゲームに夢中にな

る子どもが増加し，テレビゲームが子どもの成績低下の原因とされ，メディアや教育専門家からの批判も大きく，テレビゲーム機の販売数は急激に減少した。一方オンラインゲームは，1990年代初期にはごく少数の利用者に限られていたが，「ネットカフェ」の普及によって利用者が急増した。2004年，情報産業部はオンラインゲーム産業の発展と国産ゲームソフトの開発を推進するという方針を表明した後，オンラインゲーム産業の振興が盛り込まれた。これにより，中国のオンラインゲーム市場では当初は輸入ゲームが中心であったが，その後国産ゲームが占めるシェアは大幅に増加し，さらに海外に進出するまでになったのである。しかし，オンラインゲーム依存による事件が次々と発生したため，2010年8月に国務院所属の各部や委員会などがオンラインゲームサービスを提供する者を制限するため，「オンラインゲーム管理暫定弁法」を行政規則として制定した。それから2年間が経ち，弁法によりどのように変化したかが興味深い問題であり，今回の研究でも探ってみたい。

次に，近年，iPhoneなどのスマートフォンを使う人が急劇に増え，2012年中国ネットワーク情報センターの「第30回インターネット発展状況統計報告」により，中国の携帯電話ネット利用者規模は3.88億人になり，初めてパソコンのネット利用者数3.80億人を超えた。そして，パソコンを通したインターネットの利用率は徐々に下がっていく。中国のネット依存はパソコンと携帯電話の利用率の変化につれてどのような形態になるかも，今回の研究で探ってみたい。

また王らは，大学生3529名をYoungが作成したインターネット依存IADの8項目の基準を利用して調べ，中国人大学生ネット依存傾向がある学生では，男性（16.1%）は女性（5.9%）より少ない。学年をみると，1年生（21.5%），2年生（19.9%），3年生（13.4%），4年生（10.9%）であり，学年が増えることにつれ，ネット依存傾向がある学生は減っているとした[44]。また李らは，大学生942名をYoungが作成したインターネット依存IADの8項目の基準に台湾の陳淑恵が作成した中国語インターネット依存尺度を利用して，大学生とネット依存傾向の性差は複雑であり，ネット依存傾向が高い学生では，男性（12.3%）は女性（8.1%）より多かった。しかし，ネット依存傾向がある学生とネット依存傾向が低い学生を比較すると，男性では73.9%と75%で差が少なく，逆に女性では依存傾向がある学生と依存傾向が低い学生では13.8%と16.9%と，男性の差より大きかったことを明らかにした[42]。張らは，大学生1022名にYoungが作成したインターネット依存IADの8項目の基準を利用して，ネット依存傾向がある学生と依存傾向が高い学生では性差では有意な差がみられなかった。しかし学年別では，ネット依存傾向がある学生では，1年生（5.2%と0.5%），2年生（7.1%と1.2%），3年生（11.9%と2.4%）であり，有意な差がみられたとした。また，同じ学年別でもネット依存傾向が高い学生では，1年生（0.5%），2年生（1.2%），3年生（2.4%）であり，有意な差がみられなかった[43]。

これらの論文をみると，地域や人数や利用した尺度により，中国人大学生の男女と学年の差があるかどうかは様々であり，実際に調査したデータを計算しないと分からない。また，日本の場合は男女の結果が異なり，有意な差がみられなかったため，日中大学生の男女と学年を調べる必要性があると考えられた。

以上の先行研究をまとめると，日本では携帯電話よりパソコンに対するネット依存は比較的高く，中国ではほぼパソコンへのネット依存が示される。両国とも女性と男性のネット依存傾向の研究結果は一致していない。

またインターネットの普及につれ，大学生は自然と情報社会の先端を走っており，日本では内閣府（2007.11）の調査により，男女年齢別，職業別のインターネット利用率では，20代前後の学生の割合が一番多い[39]。また平成22年の情報通信白書によると，インターネット利用率も20代の割合が一番多い[40]。そして，中国では，CNNICの報告[6]により，20代前後の学生の割合も一番多い。日中とも20代前後の学生は大学生，大学院生，短大生，専門学校の学生という内訳になっているが，日本と中国の短大と専門学校の分類や定義が微妙に異なるため，比較できないと考えられた。また大学院生に対するインターネット依存について先行研究がないため，大学院生は調べられないと考えられた。そしてCiNiiデータベースで「インターネット依存」に関する論文は学会論文集も含め，わずか28本，さらに「インターネット依存　大学生」のキーワードでは6本のみであった。また「インターネット中毒」のキーワードでは12本，「インターネット中毒　大学生」のキーワードでは4本のみであった（2013年2月現在）。したがって，日本国内においてインターネット依存の学術情報はまだ限られているといえる。また中国ではインターネット依存についての研究は日本より遅れており，学術雑誌に掲載された論文も少ない。しかし，インターネットの過度利用が生活や心理に影響を与えている調査や記事[12][13][14][16][17][20]が多く出てくることで，インターネット依存について

の研究の必要性が示唆された。また日中のインターネット依存を調べるため,「大学生」のみ比較できると考えられ，日中の大学生を調査範囲とした研究を行った。

３．目的

本研究では，日本人大学生と中国人大学生を対象としてネット依存傾向について調査を行い，依存傾向の現状や形態及びそれに対する異なる原因を明らかにすることで両国大学生のインターネット利用形態の相違点を究明することを目的とする。

４．仮説及び疑問点

４．１　仮説

ネット依存についてパソコンと携帯電話の比較を行った坂西（2011）は，大学生200名にYoungが作成したインターネット依存テストを利用して，ネット依存性が強い者たちの場合には，ネット利用時に比較的パソコンを利用する者の方が，比較的携帯を利用する者より依存性が高くなるとした。

したがって，ネットに依存している時，パソコンのみを利用する場合をパソコンへの依存傾向とし，携帯電話のみを利用する場合を携帯電話への依存傾向と決めた。パソコンと携帯電話を併用する場合には，パソコンと携帯電話の比較にならないため，仮説のうちに入らないと決めた。

ネット依存傾向者のうち，

① 日本人大学生は，パソコンより携帯電話への依存傾向者が多い。

これは，ネット依存傾向者は，パソコンよりも携帯電話を主に利用しているということである

② 中国人大学生は，パソコンより携帯電話への依存傾向者が少ない。

これは，ネット依存傾向者は，携帯電話よりもパソコンを主に利用しているということである。

４．２　疑問点

また，いままでの先行研究をまとめると，二つの疑問点が生じており，本研究ではそれを明らかにする。

① 日中両国の大学生男女と学年についての研究結果は異なっていることを解明する。

② ２年前に中国政府が公表した管理方針によって，オンラインゲームをする人数が減少することになっていた。本研究で調査する学生も，オンラインゲームをする人数は２年前より少なくなっているのか，を調べて究明する。

５．研究の流れ

５．１　調査方法

本研究では質問紙法を行い，以下を測定した。

1．Youngのインターネット依存度テストをもとにし，本研究に適用するネット依存傾向テストを測定した。パソコンと携帯電話への依存を調査するためのアンケートを日中両国の大学生が回答した。

2．依存に関連する要因として,「オンラインゲーム」,「メール」,「場所」,「内容」,「スマートフォン/タブレット・脱獄」５要因が重要[15) 18) 25) 26) 27)]であると考えられ，測定を行った。

５．２　尺度

５．２．１　Youngのインターネット依存度テスト

Youngは1994年11月，新聞広告，キャンパスで配布したチラシ,「インターネット依存」のためのオンライン・サポートグループ，Yahooなどのサーチエンジンでinternet addictionをキーワード検索した人など，様々な手段でボランティアを集め，彼らに対して独自に開発した「インターネット依存」尺度を用いて調査を実施した。彼女の尺度は，DSM-IV（精神障害の診断と統計マニュアル第４版）で規定されている病的賭博の基準と同様な基準をもとにして「インターネット依存」であるかどうかを判断するものである。その結果，496人の被験者のうち，396人が「インターネット依存」とみなされ，残りの100人が非依存とみなされた。非依存者のインターネット接続時間が4.9時間に過ぎないのに対し，依存者のそれは38.5時間にも及んでいた[38)]。また，Brenner（1997）は32項目からなるInternet-Related Addictive Behavior Inventory（IRABI）を開発し，これをウェブページに掲載し，この調査に応じた563名の反応を分析した。回答者のほとんどがインターネット利用によって生活に悪影響を受けた例を報告しており，とりわけ時間管理の問題がもっとも一般的な問題であった[47)]。Greenfield（1999）は，Young（1998b）と同様に病的賭博の基準をもとにして「インターネット依存」を判断するVirtual Addiction Survey（VAS）を開発し，1998年にABCニュースのウェブ・サイトabc.comにログインし，この調査に反応を返してきた８歳～85歳にわたる17,500人を対象とする大規模な研究を行った。サンプルのうち６％の人が「インターネット依存」の基準を満たしていることを見出

された。これらの人は，とりわけチャット・ルーム，ポルノグラフィー，オンライン・ショッピング，電子メールの虜になっていた。過剰なインターネット利用に貢献していたのは，インターネットの持つ脱制止，匿名性，アクセスのしやすさ，親密さの増進，時間感覚のゆがみ，オンラインのコンテンツの刺激性などの特質であった[48]。Anderson（前出）は，8つの大学の1078人中106人（9.8%）が「インターネット依存」と認めた。薬物依存の定義から翻案した7項目の質問で「インターネット依存」を定義したところ，「インターネット依存」者では，インターネット利用が学業や，新しい人とであう能力，睡眠パターンにより強い影響を与える傾向にあった[46]。

このAndersonの研究以外にも，大学生等を対象とした研究は多く行われている。しかし，研究によって調査時期やサンプルが異なり，さらに「インターネット依存」を判断する尺度や基準も様々なので一致した結果とは言いがたいが，全般的に依存者とみなされる人は週に20時間程度使っていること，依存者の割合はおおむね5～10%程度であることがわかる[37][38]。

また日本では，小林ら（2001）を中心に「大学生のインターネット中毒 ―中毒症状の分布と関連する要因の検討―」というタイトルで日本心理学会において調査報告が行われた[30]。

中国でよく使われている尺度は台湾の陳淑恵が作成した「中国語インターネット依存症尺度」（CIAS）である[49]。合計26項目があり，得た点数が高いほど，ネット依存度が高い。小林らの大学生のネット中毒尺度は日本人大学生に対して作られた尺度であり，陳淑恵の「中国語インターネット依存症尺度」は中国人に対して作られた尺度であり，どちらも調査範囲が限られている。また，本研究は，ネット依存度がない者，ネット依存傾向者とネット依存者という三つの種類に分け，パソコンと携帯電話への依存の相違を研究する。Youngの「インターネット依存度テスト」の結果によると，ネット依存度がない者，ネット依存傾向者とネット依存者となり，本研究でのアンケートに適応すると判断した。さらにこのテストは世界中で一番よく使われ，日本語版と中国語版も既にあるため，使いやすいと思われる。

日本国内には，ネット依存の治療を専門に手がける医療機関として神奈川県にある久里浜医療センターがある。国立病院機構に属し，1963年に日本初のアルコール依存症専門病棟を設立，WHOからも指定を受けている。2011年7月に国内第1号となるネット依存治療研究部門を立ち上げた。この医療機構はYoungのテストを使い，ネット依存度の評価をもとにして臨床に用いているので，日本人にも適応すると思われる。またYoungのテストは中国の論文や調査の中でもよく使われ，中国人にも適応すると思われる。こうしたことより本研究では，Youngの「インターネット依存度テスト」を利用する。

Youngのインターネット依存度テストにより，回答で算出した得点を合計して3種類とした。

20～39点の得点になると，平均的なオンライン・ユーザーになり，本研究ではこの種類を「ネット依存がない者」と決め，Ⅰ群と表す。40～69点の得点になると，インターネットが原因となる一般的な問題を経験している。それが生活に与える影響について，よく考える必要があることになり，本研究ではこの種類を「ネット依存傾向者」と決め，Ⅱ群と表す。70～100点の得点になると，インターネットの利用は，生活に重大な問題をもたらしているとされ，すぐにでも対処しなくてはならないということになり，本研究ではこの種類を「ネット依存者」と決め，Ⅲ群と表す。

５．２．２　依存に関連する要因

① 「オンラインゲーム」

田島ら（2010）の研究[25]は，インターネットでゲームをよくする児童は20%であり，学年が高くなるほど増加していることを明らかにした。また橋本ら（2011a）の研究[15]では，インターネット依存者は非依存者に比べ最も利用する機能はパソコンと携帯電話から「つぶやき」や「ゲーム」の利用者の割合が高いことを明らかにしたため，「オンラインゲーム」という要因が重要であると考えられる。

② 「メール」

坂西（2011）の研究[18]では，インターネット利用の際に，パソコンよりも携帯をより多く利用する人の方が，メール依存が高いことを明らかにした。したがって「メール」という要因が重要であると考えられる。

③ 「場所」

毟（2006）は，大学のキャンパスは大学生たちが最も活動している場所であり，教室，研究室や寮などはどこもインターネットに簡易につながれることを示している[26]。また，二階堂（2007）は，家に引きこもりの最も多い原因はインターネット依存であることを明らかにした[27]。「場所」という要因が重要であると考えられる。

④ 「内容」

田島ら（2010）は，インターネット利用目的（内容）において，児童は，「動画」「情報集め」「チャット」などを利用する割合が異なることを明らかにした[25]。

「内容」という要因が重要であると考えられる。

⑤ 「スマートフォン/タブレット・脱獄」

脱獄について，まだ正式な定義はないが，IT用語辞典バイナリによると，脱獄とはあらかじめ設けられた制限を非正規に解除することである。とりわけ，iPhoneやiPod touchなどにおいて，非正規のアプリケーションを利用可能な状態にすることを指す場合が多いとされている[24]。

iPod touchやiPhoneは，Appleの認可を受けたアプリケーションに限ってインストールできるようになっている。これを，未認可のサードパーティのアプリケーションもインストールして利用できるようにする操作が，ジェイルブレイク「脱獄」と表現されている。

ここ2，3年，スマートフォンの普及が著しく多くなっており，また本研究ではパソコンと携帯電話の比較であるため，「スマートフォン」という要因が重要であると考えられる。

この5要因を調べる方法として，アンケートの後ろに六つの問題を加えた。「21」項目は「オンラインゲーム」，「22」項目は「メール」，「23」項目は「場所」と「内容」，「24」「25」「26」項目は「スマートフォン」を調査した。

そして脱獄ソフトウウェアの創始者Jay Freemanの推測[29]により，全世界のiPhone所持者のなか，約10%の人が脱獄したとされる。また「友盟2012年第三シーズンデータ報告」により，2012年9月まで中国のiPhoneの脱獄比率は43.8%，iPadの脱獄比率は39.8%という結果である[28]。従って，スマートフォン/タブレットの脱獄の現状も調べる必要があると考えられ，それに関する問題を「スマートフォン」という要因に加えた。

5．3　調査対象の選定

1．日本の東京都在住の大学生を任意に選び，計200名程度を調査対象とする。
2．中国の上海市在住の大学生を任意に選び，計200名程度を調査対象とする。

合計400名程度の大学生は調査質問紙法の調査対象とする。

日本は東京都，中国は上海市を選定した。日本で東京都を選んだ理由は，2012日本各県によるインターネット利用率[29]で，どの県もネット依存形態ほぼ同じであると判断し，首都の東京都を選んだ。そして，中国は2011年各省のインターネット普及率[45]により，北京，上海，広東という発展している都市は，他の省と比べてネット普及率は一番多く，他の省との差も大きかった。したがって，日本により近いインターネット普及率を有する上海市は，分析において最も適していると考えたため，著者の出身地上海市を選んだ。

5．4　調査対象および調査期間

2012年10月から12月の2ヶ月の間に日本（東京）と中国（上海）で調査を行った。回収したアンケートの総数は435枚，無効なアンケートは18枚，有効なアンケートは計417枚であり，回収率は95.86%であった。その中，日本（東京）の大学で回収したアンケート総数は215枚，5枚は無効になり，有効なアンケートは計210枚になる。中国（上海）の大学で回収したアンケート総数は220枚，13枚は無効になり，有効なアンケートは計207枚になる。以下は日本（東京）と中国（上海）は日本と中国と記述する。

5．5　調査を行った学校

日本側は8校で，電気通信大学，日本大学，法政大学，東京大学，東京富士大学，東京農業大学，東京学芸大学，早稲田大学である。中国側は7校で，東華大学，華東師範大学，同済大学，上海大学，上海立信会計学院，上海交通大学，上海体育学院である。

そして，調査した学生たちの専攻は様々であるため，分析は行わなかった。分析は，SPSS 16.0を用いて行った。

6．結果

6．1　総結果

日中大学生をパソコンのみか携帯電話のみかという利用情報機器に分け，Ⅰ群の「ネット依存がない者」とⅡ群の「ネット依存傾向者」とⅢ群の「ネット依存者」の群別でカイ二乗分析をした。日本人大学生は利用情報機器と群では有意な差，$\chi^2(2) = 6.535$ $p < .05$，がみられ，利用情報機器の違いにより，ネット依存傾向に差があると考えられる。中国人大学生には有意な差がみられず，$\chi^2(2) = 3.823$ $p > .05$，利用情報機器の違いで，ネット依存傾向に差がないと考えられる。

さらに詳しくカイ二乗分析をすると，結果は表1となる。その結果により，パソコンのみ，携帯電話のみという利用情報機器に分け，日本人大学生のⅡ群と中国人大学生Ⅲ群には有意な差がみられ，それぞれの群に対するパソコンのみ，携帯電話のみという利用情報機器に分けるとネット依存度に関係がある。そして日本人大学生Ⅰ群，Ⅲ群と中国人大学生Ⅰ群，Ⅱ群には

表１　日中利用情報機器３群別のカイ二乗結果

	日本人大学生	中国人大学生
Ⅰ群	$\chi^2(1)=2.617, p>.05$	$\chi^2(1)=3.692, p>.05$
Ⅱ群	$\chi^2(1)=10.479, p<.05$	$\chi^2(1)=1.436, p>.05$
Ⅲ群	$\chi^2(1)=1.893, p>.05$	$\chi^2(1)=6.788, p<.05$

表２　日中大学生利用情報機器別で３群の人数と割合（%）

		Ⅰ群	Ⅱ群	Ⅲ群	合計
日本人	パソコン	17（8.1）	43（20.5）	3（1.4）	63（30.0）
	携帯電話	9（4.3）	70（33.3）	3（1.4）	82（39.1）
	合計	26（12.4）	113（53.8）	6（2.9）	145
中国人	パソコン	5（2.4）	49（23.7）	2（1.0）	56（27.1）
	携帯電話	11（5.3）	59（28.5）	9（4.4）	79（38.2）
	合計	16（7.7）	108（52.2）	11（5.3）	135

表３　日中大学生ネット依存者の人数と割合（%）

	パソコン	携帯電話
日本人大学生	43（20.5）	70（33.3）
中国人大学生	49（23.7）	59（28.5）

表４　中国人大学生３群の組間比較のカイ二乗結果

	Ⅰ群	Ⅱ群	Ⅲ群
Ⅰ群		$\chi^2(1)=0.081, p>.05$	$\chi^2(1)=0.102, p>.05$
Ⅱ群	$\chi^2(1)=0.081, p>.05$		$\chi^2(1)=0.167, p>.05$
Ⅲ群	$\chi^2(1)=0.102, p>.05$	$\chi^2(1)=0.167, p>.05$	

有意な差がみられなく，それぞれの群に対するパソコンのみ，携帯電話のみという利用情報機器に分けるとネット依存度との関係がない。

表２により，日本人大学生はネット依存傾向者では，パソコンのみを利用している学生は携帯電話のみを利用している学生より少ない。ネット依存者では，パソコンのみを利用している学生と携帯電話のみを利用している学生は少ないため，比較できない。中国人大学生はネット依存者では，パソコンのみを利用している学生は携帯電話のみを利用している学生より少ない。

表３により，日本人大学生のうち，ネット依存傾向者はパソコンより携帯電話をよく利用している。この結果により，本研究の仮説①「日本では，パソコンより携帯電話に対するネット依存傾向は高い」は検証された。また，中国人大学生は差がないため，仮説②「中国では，パソコンより携帯電話に対するネット依存傾向は低い」は検証されなかった。

そして，日中大学生別で三つの群の人数をカイ二乗分析した。日本人大学生 $\chi^2(2)=218.421$ $p<.01$，と中国人大学生 $\chi^2(6)=4771.348, p<.01$，は有意な差がみられ，日中大学生とも群により，差があると考えられる。

しかし，Ⅰ群対Ⅱ群，Ⅰ群対Ⅲ群，Ⅱ群対Ⅲ群を比較した結果は全て有意な差がみられなかった。

表４により，中国人大学生は，２群の比較でⅠ群対Ⅱ群，Ⅰ群対Ⅲ群，Ⅱ群対Ⅲ群の比較した結果は全て有意な差がみられなかった。表３と表４をまとめると，中国人大学生は日本人大学生と同様に，Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ群を同時に比較すると，有意な差がみられた。日中大学生の三つの群を学年と性別でカイ二乗分析をすると，表４となった。

学年では，日本人大学生，$\chi^2(6)=37.034, p<.05$，と中国人大学生，$\chi^2(6)=31.343, p<.05$，は有意な差がみられた。日中大学生とも学年でネット依存度には差があると考えられる。そして，性別で，日本人大学生 $\chi^2(2)=1.386, p>.05$，と中国人大学生，$\chi^2(2)=4.492, p>.05$，では有意な差がみられなかった。日中大学生とも性別はネット依存度では差がない，$\chi^2(2)=7.965, p<.05$，と考えられる。

また，日中大学生の三つの群の人数をカイ二乗分析ですると有意な差がみられ，$\chi^2(2)=7.965, p<.05$，日本人大学生か中国人大学生かで，ネット依存度の差

表５　日中男女別３群人数と割合（%）

	Ⅰ群	Ⅱ群	Ⅲ群	合計
日本人男性	25 (11.9)	78 (37.1)	3 (1.4)	106
日本人女性	32 (15.2)	69 (32.9)	3 (1.4)	104
合計	57 (27.1)	147 (70)	6 (2.9)	210
中国人男性	18 (8.7)	98 (47.3)	9 (4.4)	125
中国人女性	21 (10.1)	54 (26.1)	7 (3.4)	82
合計	39 (18.8)	152 (73.4)	16 (7.7)	207

表６　日中大学生依存傾向の学生の内訳（%）

学年	1			2			3			4			合計
群	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	
日本人男性	4	22	1	5	38	2	9	12		7	6		106
日本人女性	5	17		4	27	2	9	19	1	14	6		104
Ⅱ群合計		39（18.6）			65（31）			31（14.8）			12（5.7）		210
中国人男性		35	1	4	34	6	10	26	1	4	3	1	125
中国人女性	4	17	3	3	14	3	7	17	1	7	6		82
Ⅱ群合計		52（25.1）			48（23.2）			43（20.8）			9（4.4）		207

注：数値は人数　　Ⅰ: 20 ～ 39点, 平均的, Ⅱ: 40 ～ 69点, 依存傾向あり, Ⅲ: 70 ～ 100点依存傾向高い

があると考えられる。

表５により，日本人大学生でネット依存者は６人（2.9%）であり，これは小林らが作成したインターネット依存度尺度を利用した研究で，小林ら[30]（2001）と和田[31]（2002）の大学生インターネット中毒者の両方とも４%との数値との差が小さく，先行研究の結果を支持した。また，中国人大学生でネット依存者は16人（7.73%）となった。これは2010年に張が「大学生インターネット依存状況及び自己管理レベルの研究」で上海市の大学生428名，Youngが作成したインターネット依存IADの８項目の基準を利用した8.41%という結果[22]及び2007年の「上海市大学生のインターネット依存調査報告」による顧が上海市の大学生3970名に自身で作成した尺度を利用した結果である12.9%[21]より少ない結果がみられた。

学年と性別を依存傾向の３群で分けた結果は表６となる。その結果により，ネット依存傾向者のうち，日本人大学生で２年生は一番多く，次に１年生，３年生，４年生という順番となる。中国人大学生で１年生が一番多く，次に２年生，３年生４年生という順番となり，学年が増えることにつれ，ネット依存傾向が減っていく傾向がみえられる。これは王らの研究結果[44]と一致した。

６．２　情報機器別の調査

情報機器別の調査として，デスクトップパソコンとノートパソコンのパソコン，及びガラパゴス携帯，iPhoneなどのスマートフォン，iPadなどのタブレットの携帯電話の内訳を詳しく分析すると，次の結果となった。

６．２．１　日本人大学生の依存度

日本人大学生のアンケートを行った結果，合計210人の中，平均年齢は19.40歳であり，男性106名，女性104名である。１年生は23.3%（49人），２年生は37.1%（78人），３年生は23.8%（50人），４年生は15.7%（33人）である。その人数をYoungのインターネット依存度テストで調べると，Ⅰ群の学生は27.1%（57人）であり，Ⅱ群の学生は70.0%（147人）であり，Ⅲ群は2.9%（６人）である。Ⅲ群の結果の2.9%となり，多くないと考えられ，Ⅱ群の学生は70.0%もあり，かなりインターネット依存傾向がある人数が多いと思われる。

６．２．２　中国人大学生の依存度

中国人大学生を調査した結果，合計207人の中，平均年齢は19.2歳であり，男性125名，女性82名である。１年生は29.0%（60人），２年生は30.9%（64人），３年生は30.0%（62人），４年生は10.1%（21人）である。Ⅰ群の学生は18.8%（39人）であり，Ⅱ群の学生は73.4%（152人）であり，Ⅲ群は7.7%（16人）である。Ⅱ群の学生は73.4%であり，Ⅲ群の結果（7.7%）は，2007年の顧　の結果の12.9%[21]より少なく，また2010年の張の結果の8.41%[22]よりも少ないとみられる。

６．２．３　日中大学生Ⅰ群結果

１）日本人大学生Ⅰ群結果

利用した情報機器別の人数は，iPhoneなどのスマートフォン（35人，38.5%）＞デスクトップパソコン（33人，36.3%）＞ノートパソコン（18人，19.8%）＞

表７　日中大学生Ⅰ群利用情報機器３種類別，男女別詳細と割合（%）

	パソコン	パソコン＋携帯電話	携帯電話	合計
日本人大学生男性	6（10.5）	13（22.8）	6（10.5）	25（43.9）
日本人大学生女性	11（19.3）	18（31.6）	3（5.3）	32（56.1）
合計	17（29.8）	31（54.4）	9（15.8）	57
中国人大学生男性	2（6.1）	9（27.3）	7（21.2）	18（54.5）
中国人大学生女性	3（9.1）	8（24.2）	4（12.1）	15（45.5）
合計	5（15.2）	17（51.5）	11（33.3）	33

ガラパゴス携帯（5人，5.6%）という順番となった。

さらに学年別では，ネット依存度がない学生は4年生（21人，36.9%）が一番多く，次に3年生（18人，31.6%），2年生（9人，15.8%）や1年生（9人，15.8%）の順番となった。

2）中国人大学生Ⅰ群結果

利用した情報機器別の人数は，iPhoneなどのスマートフォン（21人，39.6%）＞デスクトップパソコン（16人，30.2%）＞ノートパソコン（9人，17.0%）＞ガラパゴス携帯（7人，13.2%）という順番となった。

学年別では，ネット依存度がない学生は3年生（17人，51.5%）が一番多く，次に2年生（7人，21.2%），4年生（5人，15.2%）と1年生（4人，12.1%）の順番となった。

3）日中大学生Ⅰ群比較結果

日中大学生Ⅰ群の人数をパソコンのみ，パソコンと携帯電話を併用，携帯電話のみという利用情報機器別で，男女のカイ二乗分析した。日本人大学生はパソコンのみ，パソコンと携帯電話を併用，携帯電話のみという利用情報機器別で，性別では有意な差がみられなく，$\chi^2(2) = 2.454, p > .05$，性別と利用情報機器の関係はないという結果となった。また中国人大学生は，性別では有意な差がみられ，$\chi^2(2) = 20.69, p < .05$，性別と利用情報機器に関係があるという結果となった。

そして，日中別のパソコンのみ，パソコンと携帯電話を併用，携帯電話のみという利用情報機器別でカイ二乗分析をした結果は有意な差がみられなく，$\chi^2(2) = 4.768, p > .05$，日本人大学生と中国人大学生は利用情報機器の違いには差がないという結果となった。

表7により，中国人大学生Ⅰ群の学生はパソコンと携帯電話を併用で利用している人が一番多く，次に携帯電話のみを利用している人とパソコンのみを利用している人という順番となった。

６．２．４　日中大学生Ⅱ群の結果

1）日本人大学生Ⅱ群結果

147人を性別に分けると，男性は78人（53%）になり，女性は69人（47%）となっている。

利用した情報機器別の人数は，iPhoneなどのスマートフォン（90人，48%）＞デスクトップパソコン（48人，26%）＞ノートパソコン（34人，18%）＞ガラパゴス携帯（13人，7%）＞iPadなどのタブレット（1人，1%）という結果になった。

学年別では，4年生（12人，5.7%）はインターネット依存傾向がある学生が一番少なく，2年生（65人，31%）はほかの三つの学年より多いという結果がみられる。また，1年生（39人，18.6%）は3年生（31人，14.8%）より比較的に多いことが示されている。

2）中国人大学生Ⅱ群結果

Ⅱ群の性別の人数では，男性は98人（78.4%）になり，女性は54人（65.9%）になっている。

利用した情報機器別の人数は，iPhoneなどのスマートフォン（90人，37%）＞デスクトップパソコン（64人，26%）＞ノートパソコン（59人，24%）＞iPadなどのタブレット（29人，12%）＞ガラパゴス携帯（1人，1%）という順番になった。この人数はⅡ群Ⅲ群の総人数と比べ，あまり変わっていない結果が示された。Ⅱ群も同じく，iPhoneなどのスマートフォン（37%）にインターネット依存傾向がある学生は，デスクトップパソコンとノートパソコンを利用した学生（50%）より少ないとみられ，ガラパゴス携帯に依存傾向がある学生は非常に少ないと判断した。そして，iPadなどのタブレットに依存傾向がある学生は12%になり，やや高いと思われる。

学年別では，1年生（52人，25.1%）＞2年生（48人，23.2%）＞3年生（43人，20.8%）＞4年生（9人，4.4%）ということがみられた。つまり，学年につれ，ネット依存傾向者が少しずつ減っていくと思われる。

3）日中大学生Ⅱ群結果の比較

日中大学生Ⅱ群の人数をパソコンのみ，パソコンと携帯電話を併用，携帯電話のみという利用情報機器別で分けると，性別では有意な差がみられ，性別により利用情報機器が異なるという結果となった。

日中別に，パソコンのみ，パソコンと携帯電話を併用，携帯電話のみという利用情報機器別でカイ二乗分

表８　日中大学生Ⅱ群利用情報機器３種類別，男女別詳細と割合（%）

	パソコン	パソコン＋携帯電話	携帯電話	合計
日本人大学生男性	35（23.8）	10（6.8）	33（22.5）	78（53.1）
日本人大学生女性	8（5.4）	24（16.3）	37（25.2）	69（46.9）
合計	43（29.3）	34（23.1）	70（47.6）	147
中国人大学生男性	44（29.0）	31（20.4）	23（15.1）	98（64.5）
中国人大学生女性	5（3.3）	23（15.1）	26（17.1）	54（35.5）
合計	49（32.2）	54（35.5）	59（38.8）	152

析をした結果は有意な差がみられ，$\chi^2(2) = 15.461, p < .01$，日本人大学生と中国人大学生は異なる利用情報機器で差があるという結果となった。

表８により，ネット依存傾向者のうち，日本人大学生男性はパソコンのみを利用している人が一番多く，次に携帯電話のみを利用している人，パソコンと携帯電話を併用で利用している人という順番となった。女性は携帯電話のみを利用している人が一番多く，次にパソコンと携帯電話を併用で利用している人，パソコンのみを利用している人という順番となった。

日本人大学生Ⅱ群の学生は携帯電話のみを利用している人が一番多く，次にパソコンと携帯電話を併用で利用している人，パソコンのみを利用している人という順番となった。パソコンのみを利用している人のうち，男性は女性より多く，パソコンと携帯電話を併用で利用している人と携帯電話のみを利用している人のうち，女性は男性より多い。

中国人大学生男性はパソコンのみを利用している人が一番多く，次にパソコンと携帯電話を併用で利用している人，携帯電話のみを利用している人という順番となった。女性は携帯電話のみを利用している人が一番多く，次にパソコンと携帯電話を併用で利用している人，パソコンのみを利用している人という順番となった。

中国人大学生Ⅱ群の学生は携帯電話のみを利用している人が一番多く，次にパソコンと携帯電話を併用で利用している人，パソコンのみを利用している人という順番となった。パソコンのみを利用している人とパソコンと携帯電話を併用で利用している人のうち，男性は女性より多く，携帯電話のみを利用している人のうち，女性は男性より多い。

日中大学生Ⅱ群の結果を比較すると，以下のような相違点がある。

共通点：

① 日中大学生とも女性は携帯電話のみを利用している人が一番多く，次にパソコンと携帯電話を併用で利用している人，パソコンのみを利用している人という順番である。

② パソコンのみを利用している人のうち，日中大学生とも男性は女性より多い。

③ 携帯電話のみを利用している人のうち，日中大学生とも女性は男性より多い。

異なる点：

① 日本人大学生Ⅱ群の学生は携帯電話のみを利用している人が一番多く，次にパソコンのみを利用している人，パソコンと携帯電話を併用で利用している人という順番となった。中国人大学生Ⅱ群の学生は携帯電話のみを利用している人が一番多く，次にパソコンと携帯電話を併用で利用している人，パソコンのみを利用している人という順番となった。

② 男性では，日本人大学生Ⅱ群の学生はパソコンのみを利用している人が一番多く，次に携帯電話のみを利用している人，パソコンと携帯電話を併用で利用している人という順番となった。中国人大学生Ⅱ群の学生はパソコンのみを利用している人が一番多く，次にパソコンと携帯電話を併用で利用している人，携帯電話のみを利用している人という順番となった。

③ パソコンと携帯電話を併用で利用している人のうち，日本人大学生Ⅱ群の学生では女性が男性より多い。中国人大学生Ⅱ群の学生では男性が女性より多い。

６．２．５　日中大学生Ⅲ群の結果

１）日本人大学生Ⅲ群結果

性別の人数では，男性は３人（50%）になり，女性は３人（50%）になっている。

利用した情報機器別ではデスクトップパソコンを利用している学生は２人，iPhoneなどのスマートフォンを利用している学生は２人，ガラパゴス携帯を利用している学生は１人，ノートパソコンを利用している学生は１人，iPadなどのタブレットを利用している学生は０人という結果となった。

学年別では，１年生は１人となり，２年生は４人となり，３年生は１人となり，４年生はいない。日本人大学はⅢ群全体の回答者が少ないため，比較できな

表９　日中大学生利用機器別の３群カイ二乗結果

	日本人大学生	中国人大学生
Ⅰ群	$\chi^2(1)=2.617, p>.05$	$\chi^2(1)=3.692, p>.05$
Ⅱ群	$\chi^2(1)=10.479, p<.05$	$\chi^2(1)=1.436, p>.05$
Ⅲ群		$\chi^2(1)=6.788, p<.05$

い。

２）中国人大学生Ⅲ群結果

性別の人数では，男性は９人（56%）になり，女性は７人（44%）になっている。

利用した情報機器別の人数は，iPhoneなどのスマートフォン（９人，33%）＞iPadなどのタブレット（８人，30%）＞ノートパソコン（６人，22%）＞デスクトップパソコン（４人，15%）＞ガラパゴス携帯（０人，０%）となった。

学年別では，４年生（１人，６%）は全体の回答者が少ないため，比較できない。２年生（９人，56%）はネット依存者がほかの三つの学年よりかなり多いという結果がみられる。そして，２年生は１年生より２倍多く，１年生（４人，25%）は３年生（２人，13%）よりに２倍近く多い結果が示されている。人数順では，２年生＞１年生＞３年生となった。

３）日中大学生Ⅲ群結果の比較

日中大学生Ⅲ群の人数をパソコンのみ，パソコンと携帯電話を併用，携帯電話のみという利用情報機器別で，男女のカイ二乗分析した。日本人大学生と中国人大学生ともにパソコンのみ，パソコンと携帯電話を併用，携帯電話のみという利用情報機器別で，性別には有意な差がみられなく，性別で利用情報機器は異ならないという結果となった。

日中別のパソコンのみ，パソコンと携帯電話を併用，携帯電話のみという利用情報機器別でカイ二乗分析をした結果は有意な差がなく，$\chi^2(2)=4.606, p>.01$，日本人大学生と中国人大学生は利用情報機器の違いに差がないという結果となった。

日中大学生Ⅲ群の結果では違いがみられなかった。

６．３　日中大学生Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ群結果の比較

日中大学生をパソコンのみ，携帯電話のみという利用情報機器別でⅠ，Ⅱ，Ⅲ群をカイ二乗分析した。日本人大学生の結果は有意な差があり，$\chi^2(1)=11.888, p<.05$,パソコンのみや携帯電話のみにより利用状況の差がある。中国人大学生の結果は有意な差がなく，$\chi^2(1)=0.86, p>.05$,パソコンのみや携帯電話のみでの利用状況の差がない。

また日本人大学生と中国人大学生をパソコンのみ，携帯電話のみで総利用率を計算すると，有意な差がなく，日本人大学生と中国人大学生はパソコンのみや携帯電話のみにより利用状況の差がない。

表９により，Ⅱ群の日本人大学生では有意な差があり，パソコンのみや携帯電話のみにより利用状況の差がある。Ⅲ群の中国人大学生では有意な差があり，パソコンのみや携帯電話のみにより利用状況の差がある。他の群の結果では有意な差がなく，パソコンのみや携帯電話のみにより利用状況の差がない。つまり，ネット依存度がない者のうち，中国人大学生はパソコンより携帯電話を利用している人が多い。ネット依存傾向者のうち，日中大学生ともパソコンより携帯電話を利用している人が多い。

７．要因分析結果

本研究では日中両国の大学生のインターネット依存傾向の異同を調べるため，５要因をアンケートのなかに設けた。５要因とは「オンラインゲーム」,「メール」,「場所」,「内容」,「スマートフォン/タブレット・脱獄」である。

７．１　要因①オンラインゲーム

まず，オンラインゲームにはまった経験がある学生のデータを計算し，結果は表10になる。

その結果により，Ⅰ群の学生はいない。人数からみると，ネット依存傾向者のなか，日本人大学生であろうが中国人大学生であろうが多いとみられるが，日本人が１割に足りないため，多くないと考えられる。中国人大学生は12.5%になり，これは2011年の丁ら[23]のゲーム依存傾向者の結果の19%より少ないことが示された。また，ネット依存者大学生のなか，日本人大学生は１%のため，非常に少ないと考えられる。中国人大学生は2.38%になり，これは丁らの論文のゲーム依存者の結果８%より少ないとみられた。オンラインゲームにはまった期間の人数を統計のベースとし，はまったことがある情報機器の割合をまとめると，結果は表11になる。

この結果により，日本人大学生はオンラインゲームにはまった学生が少なく，そのなかほとんどはデスク

表10　オンラインゲームにはまった経験ある日中大学生人数と割合

	人数	割合（%）
日本人大学生Ⅱ群	10	6.5
中国人大学生Ⅱ群	21	12.5
日本人大学生Ⅲ群	2	1.3
中国人大学生Ⅲ群	4	2.4

表11　日中オンラインゲームにはまった学生利用情報機器別の割合

	情報機器種類	2年以内の割合（%）	1年以内の割合（%）
日本人大学生Ⅱ群	PC	8.0	2.0
	iPhone	2.2	3.3
	Cell phone	7.1	0
	Notebook	2.9	2.9
	iPad	0	0
中国人大学生Ⅱ群	PC	7.4	5.9
	iPhone	1.1	10
	Cell phone	0	0
	Notebook	1.5	0
	iPad	2.7	5.4
日本人大学生Ⅲ群	PC	0	2
	iPhone	0	1.1
	Cell phone	0	0
	Notebook	0	0
	iPad	0	0
中国人大学生Ⅲ群	PC	0	0
	iPhone	0	1.1
	Cell phone	0	0
	Notebook	1.5	1.5
	iPad	0	5.4

注：3年以上オンラインゲームにはまった人数はいなかったため，計算しない。

トップパソコンとガラパゴス携帯にはまったと示された。中国人大学生はオンラインゲームにはまった学生が多いものの，2年前よりは減っているが，デスクトップパソコンとノートパソコンからiPhoneなどのスマートフォンとiPadなどのタブレットに移行する傾向がみえられた。

7．2　要因②　メール

日中大学生を3群のよくメールのやりとりをしている学生は有意な差がみられ，$\chi^2(2) = 14.27, p < .05$，日中大学生はメールのやりとりをよくする場合では差がある。

表12により，メールのやりとりを一番よくするのが日本人大学生のネット依存傾向者である。メールのやりとりを行ったアプリケーションは，以下の結果となる。

表13により，ネット依存度がない学生のうち，iPhoneなどのスマートフォンとガラパゴス携帯でメールのやりとりをしている学生は，中国人大学生は日本人大学生より多い。デスクトップパソコンでLINE/SkypeやTwitterを通してメールのやりとりをやっている学生は，中国人大学生のほうが多い。デスクトップパソコンとノートパソコンでFacebookメッセージャーを通してメールのやりとりをやっている学生は日本人大学生のほうが多い。

ネット依存傾向者のなか，日本人大学生でガラパゴス携帯を通してメールのやりとりを行う学生が，中国人大学生より大幅に多いことが示された。日本のガラパゴス携帯が発展したため，日本人大学生は恐らくSMSを利用し，メールをするのが好みだと思われる。また，iPhoneなどのスマートフォンの利用状況では，SMS，LINE/SkypeやTwitterを通してメールのやりと

表12　日中大学生よくメールをやる人数と割合

	人数	割合（%）
日本人大学生Ⅰ群	32	56.1
中国人大学生Ⅰ群	11	33.3
日本人大学生Ⅱ群	104	68.0
中国人大学生Ⅱ群	73	43.5
日本人大学生Ⅲ群	4	2.6
中国人大学生Ⅲ群	14	8.3

表13　日中大学生メールのやりとりを行ったアプリケーション利用割合（%）

		SMS	LINE/Skype	Twitter	MSN Messenger	Facebook Messenger
日本人大学生Ⅰ群	PC					18.8
	iPhone	3.1	3.1			
	Cell phone	62.5				
	Notebook					12.5
	iPad					
中国人大学生Ⅰ群	PC		18.2	18.2		
	iPhone	9.1				
	Cell phone	54.6				
	Notebook					
	iPad					
日本人大学生Ⅱ群	PC			2	2	
	iPhone	15.2	34.8	13.0	1.1	10.9
	Cell phone	85.7				
	Notebook		2.9			
	iPad					
中国人大学生Ⅱ群	PC			1.5		
	iPhone	20	43.3	26.7	10	
	Cell phone	20.3				
	Notebook					
	iPad	5.4				
日本人大学生Ⅲ群	PC					
	iPhone		2.2	1.1		
	Cell phone	7.1				
	Notebook					
	iPad					
中国人大学生Ⅲ群	PC					
	iPhone		7.8	3.3		
	Cell phone	10.2				
	Notebook					
	iPad					

注：中国では，微信はLINE/Skypeと同じようなアプリ，新浪微博などはTwitterと同じようなアプリ，QQはMSN Messengerと同じようなアプリ，人人MessengerはFacebook Messengerと同じようなアプリである。また機種の選択は複数解答可能のため，割合で表している。

りを行っている学生はどちらも中国人大学生のほうが多いことが示された。

ネット依存者のなか，メールのやりとりに依存する大学生は両国とも少ないと考えられる。

7．3　要因③　場所

両国の大学生の利用情報機器別でインターネットに接続した場所を計算すると，以下のような結果になる。ただし，「途中」はどこかに行く途中を指し，「交通機関」は電車，地下鉄，車や飛行機などを全部含み，「授業中」は授業で利用する情報機器以外の場合を指す。

表14により，パソコンについては，日本人大学生は家と校内でよく使い，中国人大学生は家と寮・下宿

表14　日中大学生場所別情報機器利用割合（%）

	情報機器	校内	家	寮・下宿	途中	交通機関	授業中	ネットカフェ
日本人大学生Ⅰ群	PC	26.3	5.3	1.8				
	iPhone					14.0		
	Cell phone	3.5				31.6		
	Notebook	3.5	10.5	3.5				
	iPad							
中国人大学生Ⅰ群	PC							
	iPhone			15.2				
	Cell phone				30.3	18.2	9.1	
	Notebook		15.2	12.1				
	iPad							
日本人大学生Ⅱ群	PC	42.0	32.0	12.0				
	iPhone	38.0	3.3		4.4	42.9	7.6	
	Cell phone	35.7	42.9	14.3	28.3	50.0	14.3	
	Notebook	57.1	22.9	2.9				
	iPad		（1人）					
中国人大学生Ⅱ群	PC		55.9	11.8				2.0
	iPhone	1.1	15.6	22.2	10.0	3.3	27.0	
	Cell phone		（1人）					
	Notebook		27.7	38.5				
	iPad		27.0	13.5	2.7		24.4	
日本人大学生Ⅲ群	PC		2.0					
	iPhone		0	0	1.1	1.1		
	Cell phone					7.1		
	Notebook							
	iPad							
中国人大学生Ⅲ群	PC		4.4					
	iPhone		3.3	1.1	1.1	1.1	3.3	
	Cell phone							
	Notebook		4.6	4.6				
	iPad		8.1	13.5				

注：機種の選択は複数解答可能のため，割合で表している。「途中」はどこかに行く途中を指す。「交通機関」は電車，地下鉄，車や飛行機などを全部含む。「授業中」は授業で利用する情報機器以外の場合を指す。

でよく使っていると思われる。携帯電話については，日本人大学生はどこかに行く途中と交通機関でよく使い，中国人大学生は授業中と寮・下宿でよく使っていると思われる。日本の大学は図書館，休憩室，研究室などでよくパソコンが設置されており，学生は校内でも便利にパソコンを使えると考えられ，中国では，寮・下宿に住まわせることは強制であり，学生はノートパソコンを寮に持ち込んで使うのが便利であると考えられる。また，日本では個人空間を大事にし，どこかに行く途中と交通機関で携帯電話を使うのが日本独特の文化であると考えられる。中国では3Gネットワークの料金は使い放題ではなく，しかも教室のなかにWi-Fiが設置されている学校が多くなっており，携帯電話をインターネットに繋げることがよくあると考えられる。

7．4　要因④　内容

インターネットに接続する時，一番よくやることの結果は表15になる。

この結果により，ネット依存度がない学生では，パソコンについて日本人大学生はよく資料を調べ，中国人大学生はよくチャットする。携帯電話について，日本人大学生はよくチャットしており，中国人大学生はよくツイーターをやる。ネット依存傾向者と依存者で，パソコンと携帯電話とも両国の大学生はよくツイーターをやる。異なる点として，日本人大学生はチャットをしているが，中国人大学生はビデオを観る/音楽を聴くと考えられる。中国人大学生の場合はiPadなどのタブレットでビデオを観る/音楽を聴くということが，iponeとほぼ同じ割合で選ばれていることが示されている。iPadなどのタブレットはiPhoneな

表15　日中インターネットに接続した内容別で情報機器利用割合（%）

	情報機器	ニュースを見る	資料を調べる	ビデオを観る/音楽を聴く	ツイーター	チャット	ダウンロード	ゲーム	ショッピング
日本人大学生Ⅰ群	PC	7.0	3.5		3.5				
	iPhone				12.3	10.5			
	Cell phone	17.5				26.3			
	Notebook		10.5	1.8	7.0				
	iPad								
中国人大学生Ⅰ群	PC		12.1			15.2			
	iPhone				30.3	12.1			
	Cell phone					15.2			
	Notebook		12.1						
	iPad								
日本人大学生Ⅱ群	PC	8.0	12.0	28.0	38.0	4.0	2.0	4.0	
	iPhone	5.4	5.4	6.5	59.8	12.0		10.9	
	Cell phone	7.1	14.3			28.6			
	Notebook	2.9	2.9	14.3	14.3	2.9	2.9	2.9	
	iPad					（1人）		0	
中国人大学生Ⅱ群	PC	5.9	1.5	35.3	33.8	2.0	8.8	7.4	7.4
	iPhone	3.3	2.2	27.8	44.4	3.3	6.7	10	5
	Cell phone					（1人）			
	Notebook	1.5	1.5	20.0	43.1	1.5	6.2	4.6	4.6
	iPad	5.4		27.0	18.9	2.7	5.4	10.8	8.1
日本人大学生Ⅲ群	PC				2.0			2.0	
	iPhone				12.0	1.1			
	Cell phone					7.1			
	Notebook			2.9					
	iPad								
中国人大学生Ⅲ群	PC			1.5	4.4				
	iPhone			3.3	6.7				
	cell phone								
	Notebook			3.2	4.6			1.5	
	iPad			8.1	8.1			5.4	

注：機種の選択は複数解答可能のため，割合で表している。

表16　日中大学生スマートフォン/タブレットを持っている人数と割合

	人数	割合（%）
日本人大学生Ⅰ群	8	3.8
中国人大学生Ⅰ群	10	4.8
日本人大学生Ⅱ群	69	32.9
中国人大学生Ⅱ群	101	48.8
日本人大学生Ⅲ群	2	1.0
中国人大学生Ⅲ群	13	6.3

どのスマートフォンと同じ機能がついており，画面が大きく，持ち歩きが便利なため，教室や寮のベッドでビデオを観る/音楽を聴くことが中国人大学生に好かれていると考えられる。

7．5　要因⑤　スマートフォン/タブレット・脱獄[24)]

スマートフォン/タブレットを持って以来，前よりよくインターネットに接続した学生の結果は表16になった。

この結果により，スマートフォン/タブレットを持って以来，前よりよくインターネットに接続した学生は，ネット依存度がない学生のうち，日本人大学生は8人（3.8%），中国人大学生は10人（4.8%）となった。ネット依存傾向者のうち，日本人大学生は69人

表17　日中大学生スマートフォン/タブレットのネットワーク利用状況割合（%）

	情報機器	3G	Wi-Fi	3G+Wi-Fi	LTE
日本人大学生Ⅰ群	iPhone	12.3		1.8	
	iPad				
中国人大学生Ⅰ群	iPhone			30.3	
	iPad				
日本人大学生Ⅱ群	iPhone	88.4		8.7	1.5
	iPad			1.5	
中国人大学生Ⅱ群	iPhone	6.9		85.2	
	iPad		33.7	1.0	
日本人大学生Ⅲ群（1人）	iPhone	100			
	iPad				
中国人大学生Ⅲ群	iPhone	7.7		30.8	
	iPad		15.4		

注：機種の選択は複数解答可能のため，割合で表している。

表18　中国人大学生が料金プランを使い切れたときの行動の人数と割合

	項目	人数	割合（%）
中国人大学生Ⅰ群	料金プランの延長コースを申し込む		
	そのまま3Gを使わずWi-Fiがある場所で繋げる	9	27.3
	翌月はボリュームがより多く使えるパッケージに変換する		
	インターネットに接続しなくていいアプリを利用する	1	3.0
中国人大学生Ⅱ群	料金プランの延長コースを申し込む	56	56.6
	そのまま3Gを使わずWi-Fiがある場所で繋げる	26	26.3
	翌月はボリュームがより多く使えるパッケージに変換する	8	8.1
	インターネットに接続しなくていいアプリを利用する		
中国人大学生Ⅲ群	料金プランの延長コースを申し込む	6	6.1
	そのまま3Gを使わずWi-Fiがある場所で繋がる		
	翌月はボリュームがより多く使えるパッケージに変換する	3	3.0
	インターネットに接続しなくていいアプリを利用する		

注：スマートフォンとタブレットを同時に持っている学生がいるため，人数の結果が異なる可能性がある。

(32.9%)，中国人大学生は101人（48.8%）になった。またネット依存者のうち，日本人大学生は2人(1.0%)，中国人大学生は13人（6.3%）となった。

そして，スマートフォン/タブレットが使われているネットワークの結果は表17になった。

この結果により，iPhoneなどのスマートフォンを使うとき，日本人大学生のほとんどは3Gというネットワークを選び，中国人大学生のほとんどは3G+Wi-Fiのネットワークを選んだと見られる。これは日本の携帯料金のパッケージは使い放題であり，中国では使い放題ではなく，一定の制限があるため，異なると考えられる。またiPadなどのタブレットを使うとき，日本人大学生は3G+Wi-Fiのネットワークを選び，中国人大学生はWi-Fiを選んだ割合が高いとみえられる。

そして，中国人大学生のみ答える問題で，もしパッケージを使い切れたら，どのような行動を取るのか，についての結果は表18になった。

この結果により，中国人大学生は「料金プランの延長コースを申し込む」という行動を取る学生の割合のほうが高いものの，半数がそれを選んだということは3GとWi-Fiを一緒に使っている学生が多いと考えられる。

そして日中の大学生にスマートフォン/タブレットの脱獄について調べると，日本人大学生は1人のみ脱獄していた。中国人大学生のデータの結果は表19になる。

この結果からみると，ネット依存傾向者で中国人大学生は8割近くの人が脱獄し，かなり高い割合である。ネット依存者で脱獄した中国人大学生は9割以上であり，ほとんどの学生が脱獄したとみられる。これは中国ではインターネットの検索で脱獄手順やアプリが見つかるため，自分で脱獄することができるからであろう。また脱獄サービスを行う店も沢山あるため，中国では脱獄することは簡単に行え，学生の脱獄割合が高くなると考えられる。そして，脱獄した理由は表20になる。

表19　中国人大学生脱獄人数の割合

	割合（%）
中国人大学生Ⅰ群	なし
中国人大学生Ⅱ群	79.7
中国人大学生Ⅲ群	94.1

注：機種の選択は複数解答可能のため，割合で表している。

表20　中国人大学生脱獄した理由の割合

項目	中国人大学生Ⅱ群（%）		中国人大学生Ⅲ群（%）	
	iPhone	iPad	iPhone	iPad
個性的に使える	5.9	6.3	1.0	6.3
無料でダウンロードすることができる	38.2	31.3	1.0	
使えなかったファイルが使えるようになる（ビデオを観る/音楽を聴くなど）	46.1	43.8	6.9	12.5
みんなが脱獄したから，私も脱獄した	1.0			
脱獄はよくないと思って，元々のシステムに戻った				

注：機種の選択は複数解答可能のため，割合で表している。

この結果により，中国人大学生が脱獄した理由は主に「使えなかったファイルが使えるようになる（ビデオを観る/音楽を聴くなど）」，「無料でダウンロードすることができる」である。それは中国人大学生がiPhoneなどのスマートフォンを使う時，よくビデオを観る/音楽を聴くということと繋がっていると考えられる。

以上の５要因「オンラインゲーム」，「メール」，「場所」，「内容」，「スマートフォン/タブレット・脱獄」をまとめると，日本人大学生は3Gを通してインターネットに接続しており，オンラインゲームとメールに依存する傾向が少ないと考えられる。また家や校内でデスクトップパソコンを使ってツイッターをやることと，どこかに行く途中や交通機関で携帯を使ってツイッターやチャットをやることに依存する傾向がある程度高いと考えられる。そして，中国人大学生は3GとWi-Fiの両方を通してインターネットに接続しており，オンラインゲームに依存する傾向が高いものの減少していると思われる。また，ゲームを使った媒体はデスクトップパソコンからiPhoneなどのスマートフォンやiPadなどのタブレットに移行する傾向があると考えられる。またメールに依存する傾向が少なく，家や寮・下宿でデスクトップパソコンを使ってツイッターをやることと授業中や寮・下宿でケータイを使ってツイッターをやったり，ビデオを観たり，音楽を聴いたりすることに依存傾向が高いと思われ，それは，ほとんどの学生が脱獄したから可能になったと考えられる。

８．考察とまとめ

日中大学生の相違点は：

① ネット依存傾向について，日本人大学生は低く，中国人大学生は高い。

② ネット依存傾向者では，日本人大学生はパソコンより携帯電話をよく利用し，中国人大学生はパソコンと携帯電話の利用の差がない。

③ 機器別では，ネット依存傾向者では，日本人大学生は中国人大学生よりデスクトップパソコン，スマートフォンとガラパゴス携帯を利用し，中国人大学生は日本人大学生よりノートパソコンとタブレットを利用している。

④ 学年別では，ネット依存傾向者では，日本人大学生は２年>1年>3年>4年という順番になり，先行研究の結果と異なった。中国人大学生は１年>2年>3年>4年という順番になり，学年が増えるにつれ，ネット依存傾向が減っていく傾向があり，先行研究と一致した。

さらに，相違点を要因ごとに分析すると，

① 日本ではインターネットの現状は既に発展が終わっており，依存傾向は平穏になっているため，依存傾向が低い。また中国では急激にインターネットが発展して，発展が持続しているために，現段階はまだ高いとみられる。

② 日本の携帯電話の発展により，ネットに接続する場所と支払プランの制限がなく，利用に便利な点がある。また，日本では個人空間を大事にし，どこかに行く途中と交通機関で携帯電話を使うこと

が日本独特の文化であると思われ，携帯電話を利用する学生のほうが多い。そして，中国ではここ2，3年，スマートフォンの普及率が一気に増えている。

③ 日本の大学では図書館，休憩室，研究室などでよくパソコンが設置されており，学生は校内でも便利にパソコンを使うことができる。また中国では，寮・下宿への居住は強制で，学生はノートパソコンを寮に持ち込みして使うのが便利である。しかもタブレットはスマートフォンと同じ機能がついており，画面が大きく，持ち歩きが便利のため，教室への持ち込みや寮のベッドでビデオを観る/音楽を聴くのも便利である。それに加えて中国人大学生はほとんどの人がスマートフォン/タブレットを脱獄し，さらに使いやすくしている。

9．今後の展望

本研究ではパソコンをデスクトップパソコンとノートパソコンに分け，携帯電話をガラパゴス携帯，スマートフォンとタブレットに分け，タブレットは携帯電話の範囲に入ると考えた。

また本研究では中国の上海のみを調査しており，地域によって依存傾向や形態がかなり異なるため，中国全土の形態を代表できないと思うものの，日本と比べて近いインターネット普及率の上海を選び，上海を中国の代表にした。したがって今後の課題としては中国全土のインターネット依存形態を調べる必要があると考えられる。

そして，スマートフォンやタブレットの普及につれ，インターネット依存傾向が変わることも予測され，今後もそれらの変化について調べる必要があると考えられる。

参考文献

1） ITU (国際電気通信連合 International Telecommunication Union). (2011). Internet user, Global numbers of individuals using the Internet, total and per 100 inhabitants, 2001-2011 EB/OL). http://www.itu.int/ITU-D/ict/statistics/index.html, 2012-06.

2） Pew Research Center. Internet and Information Technology Trends. (2011). http://pewresearch.org/ , 2011-12 EB/OL).

3） WEBマーケティング研究会．(2012)．第10回・オーストラリア，http://www.webdbm.jp/2012/09/10-52ec.html, 2012-09-24 EB/OL)．

4）「OECDブロードバンド統計」報告書．(2011)．http://www.oecd.org/sti/broadbandandtelecom/oecdbroadbandportal.htm#Penetration, 2011-12 EB/OL)．

5） 独立行政法人 日本貿易振興機構 JETRO．(2012)．東南アジアにおけるインターネット普及状況とSNS調査，1，2012-03 DB)．

6） CNNIC，中国互联网络信息中心．(2012)．第30次中国互联网络发展状况统计报告．5，2012-07 DB.

7） 総務省 (2012)．平成23年通信利用動向調査の結果．1．インターネット人口普及率について．http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/data/120530_1.pdf, 2012-05-30 EB/OL.

8） 春日伸予・伊藤克人 (2004)．芝浦工業大学生のインターネット依存に関する調査研究，芝浦工業大学研究報告，人文系編 38（2），1．

9） 斎藤環（2004)．韓国のネット依存者たちに学ぶ．中央公論 119（9），46.

10） 安澤好秀（2009)．インターネットへの依存傾向の実態と心理的要因に関する一考察 ―強迫および回避との関連性を主眼に．臨床心理学研究，7，142，東京国際大学

11） 黒田一彌・高田雅彬・岳五一（2010)．インターネット依存症の実態調査と分析．パーソナルコンピュータ利用技術学会全国大会講演論文集 5，13-16.

12） 鄭艶花（2008)．インターネット依存傾向と日常的精神健康に関する実証的研究 心理臨床学研究 26（1），72-83.

13） 香山リカ（2008)．ゲーム・ネット依存の心理とその功罪（特集 傷ついた子どものこころを癒す)．精神科 12（1），36-39.

14） 芦崎治（2009)．論苑 ネットゲームに依存し現実を見失う人びと第三文明，596，24-28．第三文明社.

15） 河井大介（2012)．SNS依存者の生活習慣的影響と利用機能の分析2010年A社SNS調査結果より，社会情報学研究，日本社会情報学会誌 16（2），157-170.

16） ダイヤモンド社（2009)．1日7時間も利用！驚くべき小学生のケータイ依存の実態（特集 子ども危機 ―この国で産み育てるリスク）―（危機 現代の子どもを狙うネット，携帯の罠）週刊ダイヤモンド 97（30），33.

17） 金山健一・竹内和雄（2010)．中学生の携帯電話依存とライフスタイルの関係，日本教育心理学会総会発表論文集，52，490.

18） 坂西秀美（2011)．インターネット依存と心理的要因 ―パソコンと携帯電話の比較― 臨床心理学研究，9，141-161.

19） 中国青年网，中国青少年网瘾报告（2011)．http://www.youth.cn

20） 中国新闻网（2011)．父母报警告发儿子勒死女友，其因游

戏上瘾忘救人. http://www.chinanews.com/fz/2011/09-19/3335706.shtml

21）顧海根（2007）. 上海市大学生网络成瘾调查报告. 心理科学, 30（6）, 1482-1483.

22）张芝（2010）. 大学生网络成瘾状况及其自我管理水平的研究. 上海理工大学心理健康教育中心, 中国成人教育, 2-3.

23）丁鹏（2011）. 关于网络游戏对大学生影响的调查报告. 黑龙江八一农垦大学.

24）ウェブリオ株式会社（2012）ジェイルブレイク. IT用語辞典バイナリ. http://www.weblio.jp/content/jailbreak

25）田島信元・中山真貴子・宮下孝広・多田幸雄・今滝純江（2010）. ゲーム・インターネット依存尺度の構成と依存予防・克服の条件の分析（1）―ゲーム・インターネット利用状況の実態　生涯発達心理学研究, 2, 113-122.

26）毕见好（2006）. 网络成瘾的心理问题及心理治疗. 中国民康医学.

27）二階堂祥生・柏原昇店（2007）. 続々誕生する新種のネット依存症　21-24, 2007. 1.28　読売ウイークリー.

28）友盟（2012）. 设备市场生命周期推动格局变化2012年第三季度数据报告 2012.11 http://dev.umeng.com/files/download/Umeng_2012_Q3_Data_Report.pdf

29）総務省（2012）. 平成23年度通信利用動向調査. 平成24年度情報通信白書

30）小林久美子・坂元章・足立にれか・内藤まゆみ・井出久里恵・坂元桂・高比良美詠子・米澤宣義（2001）. 大学生のインターネット中毒 ―中毒症状の分布と関連する要因の検討　日本心理学会第65回大会発表論文集, 863.

31）和田正人（2002）. 大学生のインターネット中毒とインターネット不安の関連についての実証的研究　東京学芸大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要26, 199-207.

32）日本インターネット協会（2012）. インターネット白書2012. インプレスRD.

33）高橋三郎・染矢俊幸・大野裕（翻訳）（2003）. DSM-IV-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル. 医学書院.

34）Griffiths, M. (1998). Internet addiction: Does it really exist? In J. Gackenbach (Ed) *Psychology and the Internet: Intrapersonal, interpersonal, and transpersonal implications* (pp.61-75). San Diego, CA: Academic Press.

35）Lam, L.T., Peng, Z. W., Mai, J. C., & Jing, J. (2009). Factors associated with Internet addiction among adolescents. *CyberPsychology and Behavior*, 12, 551-555.

36）財団法人コンピュータ教育開発センター（2002）. 平成14年度文部科学省委託事業　情報化が子どもに与える影響（ネット利用傾向を中心として）に関する調査報告書.

37）Young, K.S. (1998a). *Caught in the Net: How to recognize the signs of internet addiction and a winning strategy for recovery*. New York, NY: John Wiley. 小田嶋由美子（訳）（1998）. インターネット中毒 ―まじめな警告です. 毎日新聞社.

38）Young, K. S. (1998b). Internet addiction: The emergence of a new clinical disorder. *CyberPsychology and Behavior*, 1 (3), 237-244.

39）内閣府大臣官房政府広報室（2008）. インターネット上の安全確保に関する世論調査. 平成19年11月　世論調査報告書.

40）総務省（2010）. 情報通信白書平成22年版　情報通信統計データベース.

41）総務省（2012）. 情報通信白書平成24年版　情報通信統計データベース.

42）张芝・李建东・杨颖・顾娅娣（2009）. 大学生不同网络成瘾状态及其上网行为特征实证研究　思想理论教育（上半月综合版）.

43）张玲・石凯・伍亚舟（2011）. 某军校大学生网络成因倾向及影响因素分析中国健康教育期刊, 27（8）, 578-581

44）王书诏・赵睿・赵国鹏（2006）. 理工科院校学生网瘾现状调查，成因分析及戒除对策研究，大连理工大学电子与信息工程学院

45）CNNIC（2011）. 中国互联网络信息中心. 第29次中国互联网络发展状况统计报告. 16. http://www.cnnic.net.cn/research/bgxz/tjbg/201201/P020120118512855484817.pdf

46）Anderson, K. (1999). Internet dependency among college students: Should we be concerned?Retrieved February 21, 2000, from http://www.rpi.edu/anderk4/research.html

47）Brenner, V. (1997). Psychology of computer use:XLVII. parameters of Internet use, abuse and addiction: the first 90 days of the Internet use survey. *Psychological Reports*. 80, 879-882.

48）Greenfield, D. N., (1999). *Virtual Addiction: Help for netheads, cyberfreaks, and those who love them*. New Harbinger Publications, Oakland, CA. USA.

49）Chen, S. H., Wen, L. J., Su, Y. J., Wu, H. M., & Yang, P. F. (2003). Development of Chinese Internet Addiction Scale and its psychometric study, *Chinese Journal of Psychology*, 45 (3), 279-294.

この研究は2012年に東京学芸大学に提出した修士論文の一部である。

中国と日本の大学生のインターネット依存傾向

An Internet Addiction Disorder in Chinese Students and Japanese Students

中日两国大学生的网瘾倾向

王　　霞*・和　田　正　人**

WANG Xia and Masato WADA

教育実践研究支援センター

Abstract

This study examined the tendency of internet addiction disorder in Chinese students and Japanese's. We surveyed 210 Japanese college students and 207 Chinese college students, on the basis of Young's "Internet Addiction Disorder Test " to conduct the questionnaire. Japanese students who have the tendency of internet addiction disorder, have used more mobile phone than personal computer . Chinese students who have the tendency of internet addiction disorder, have used mobile phone as well as computer. And then we analyzed five factors of the questionnaire with " online games" , "mail" , "place" , "content" , and "smartphone/tablet•jailbreak" . Japanese students connected to the Internet through 3G, less tendency of doing e-mail and online game. Also the students had some tendency of tweeting on desktop PC at school or home , chatting or tweeting on mobile phone in transportations or on the way to somewhere. Chinese students connected to the Internet through Wi-Fi and 3G, and have high tendency on online game, but it seem to be decreased from the previous , and the medium they used to play game changed from desktop PC to smart phone or tablet , such as iPhone or iPad. Then less tendency of sending mail , and high tendency of tweeting by desktop PC at dormitory or home, or watching video , listening to music by mobile phone in the dormitory or when they are having a lesson. Because that most Chinese students have done the " Jailbreak " .

Key words: Internet addiction, Personal Computer, Mobile Phone

Department of Center of the Research and Support of Educational Practice, Tokyo Gakugei University, 4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo 184-8501, Japan

要旨:　本研究は日中両国の大学生のネット依存傾向を研究したものである。日本人大学生210名，中国人大学生207名を調査対象とし，ヤングの「インターネット依存尺度」をもとにして，アンケートを行った。イン

*　TORAY International (China) CO., LTD.
**　Center for the Research and Support for Educational Practice, Tokyo Gakugei University

ターネット依存傾向がある学生で，日本人はパソコンより携帯電話を使い，中国人ではパソコンと携帯電話の利用には差がなかった。依存に関する５要因「オンラインゲーム」,「メール」,「場所」,「内容」,「スマートフォン/タブレット・脱獄」を分析した。日本人大学生は3Gを通してインターネットに接続しており，オンラインゲームとメールに依存する傾向が少なかった。また家や校内でデスクトップパソコンを使ってツイートすることと，通学途中や交通機関内でケータイを使ってツイートやチャットをすることに依存する傾向がある程度高かった。中国人大学生は3GとWi-Fiを通してインターネットに接続しており，オンラインゲームに依存する傾向が高いが，以前より減少していると思われた。また，ゲームを使う媒体は，デスクトップパソコンからiPhoneなどのスマートフォンやiPadなどのタブレットに移行する傾向があった。またメールに依存する傾向は少なく，ツイートするのに，デスクトップパソコンを使って家や寮・下宿で行っていたり，ケータイを使って授業中や寮・下宿で行っていたりすることとビデオを見たり音楽を聴いたりすることに依存傾向が高く，それはほとんどの学生が「脱獄」したことによると思われた。

キーワード: インターネット依存傾向，パソコン，携帯電話

本研究采用“网络成瘾倾向”的角度，研究了中日两国的网瘾倾向。为此，以日本大学生210名，中国大学生207名为调查对象，在Young的“网络成瘾测量标准”的基础上进行了问卷调查。结果显示，日本大学生中有网络成瘾倾向的学生，使用手机多过电脑。中国大学生中有网络成瘾倾向的学生，在使用电脑和手机上并没有区别。其后又在问卷中分析了五因素“网络游戏”，“短信”，“场所”，“内容”，和“智能手机/平板电脑・越狱”。日本大学生通过3G网络连接到互联网，对于网络游戏和短信的网络成瘾倾向很小。而在家或学校，使用电脑连接推特，在去某地的路上或交通工具中使用手机连接推特的网络成瘾倾向相对较高。中国大学生通过Wi-Fi和3G连接到互联网，对于网络游戏的网络成瘾倾向虽然较高，但是比以前有所下降，而使用的媒体有从电脑转为智能手机iPhone和平板电脑iPad的趋势。然后对于发短消息的网络成瘾倾向并不高，而在家或宿舍使用电脑连接微博，在宿舍或上课时使用手机连接微博，看片，听音乐的网络成瘾倾向较高，这是因为大多数学生都“越狱”过了。

关键词：网络成瘾倾向，个人电脑，手机